鉄骨部材加工業団体「TNB」が定例会

渡邊会長「活動強化、認知度向上へ」

鉄骨二次部材の加工業者で構成するTNB（会長・渡邊進メタルプロダクツ社長）はこのほど、山形県真室川町のメタルプロダクツで第10回定例会を開催し、現況の物件動向や各社が直面する課題などについて、意見を交換した。

定例会では冒頭、渡邊会長が「今回で10回目を迎えた。これも会員各社のご協力、ご理解の賜物。鉄骨二次部材加工という業種が少しでも認知されるよう、そして各社の繁栄につながるように今後もTNBの活動を通して行動していきたい」と挨拶。引き続き出席者から近況報告が行われた。

この中で、最近の物件動向について「3月周辺は落ち着いていたが、5月以降の引き合いが多く対応に苦慮しそう。すでに来年の話も来ており、協力会社の囲い込みや一定枠を確保したいなどの打診がある」、「学校、店舗、ショッピングセンター、物流倉庫など幅広く物件が出てきた。太陽光架台も引き続き需要が見込まれている。しかし、近い将来間違いなく来る需要減速に対し、鋼材費、人件費、副資材、諸経費、新規設備投資の重荷の問題をどうクリアするかが課題」などが報告された。また足元の好調さの一方で、先行きのマーケットへの不安材料を指摘する意見も出された。

高稼働が続く製作現場に関しては、機械のトラブルに際して機械の各部品を必ず1個ストックする体制や簡単な修理ならば自前で行うことで、復旧時間を短縮するなど現場目線の創意工夫例も紹介。人材確保・育成策では、海外技能研修生受入制度を導入した企業から、制度の評価とともに今後も引き続き活用していく見通しが示された。

意見交換では、繁忙期における現場職員の労働時間増加にまで話題が及び、残業で対応せざるを得ないとする意見の一方で、残業を抑える体制で臨んでいるため外注を増やすほか、受注調整するケースもあるとの声も聞かれた。

そのほか、今後の会の活動・運営の方向性についても活発に意見を交換し、情報交換の場としての必要性について一致。その上で、会の認知度を上げる方策として、同業者に対する参加の呼びかけを通じた会員数の増加や全構連に対する働きかけを実施するなどが提案された。

また、定例会に先立ち、メタルプロダクツの工場見学会も開催。参加者からは、モノを探す時間の短縮方法や物件の一連の流れを間違わずに簡素化しているシステム、CAD／CAMを100％活用している工夫について関心が寄せられた。

鉄鋼新聞 5/15